

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472603149	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 さがみ		
所在地	(〒252-0327) 神奈川県相模原市南区磯部156-1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成25年10月8日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月1日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

相模川が近くに流れ、田畑に囲まれた季節感のある閑静な場所にあります。地域の伝統行事が現在も残っており、一緒に見物したり参加したりして、楽しく安全で穏やかな生活を送って頂けますよう、お手伝いさせて頂いています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年10月28日	評価機関 評価決定日	平成26年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の立地・環境】 この事業所はJR相模線下溝駅より徒歩約10分のところにある。付近一帯は「府中通り大山道」に沿った歴史のある落ち着いた住宅地で、磯部八幡宮を始め森に囲まれた神社仏閣が点在し、近くには相模川が流れる自然豊かな地域である。建物は2階建てで階ごとに青空、大地と名付けられた2ユニットである。敷地は広く、アプローチから玄関前まで距離があり、入口脇には季節の花のプランターが並んでいる。建物をはさんで後方には広い菜園がある。これらは、災害時の一時避難に利用できるうえ、菜園で収穫したサツマイモをおやつとして利用者に提供している。 【理念の実践と利用者の生活】 開所以来引き継がれている理念は、誠心誠意・一期一会・以心伝心・喜怒哀楽・十人十色という五つの言葉で表現されている。その主旨は「一人ひとりのリズムに合わせ、真心を持ってゆったりと笑顔で寄り添うケアを行う」ということである。職員は理念を念頭に置き、利用者と同程度の距離感を保ちながらお互いに連携して常に笑顔で気を配り、見守りや誘導を行ってそれぞれのやりたいこと、できることをサポートしている。利用者は、好きな絵を描いたり、ゆったりとくつろいでお茶を飲んだり、部屋で休んだり、玄関先のベンチで職員を交えて談笑しながら外気浴や散歩などを行っている。 【地域に密着した支援】 地域一帯はオーナーを始め、街道沿いに古くから住んでいる住民が多く、開所から8年を経た事業所は地域に馴染んでいる。様々な伝統行事が残っていて、地区ごとに競い合う相模の大凧まつりや磯部八幡宮例大祭、子ども達が月見団子をねだり歩く「月見の風習」などを見物したり参加している。行事を通じて地域の人々と顔見知りになり、散歩のときなどに挨拶を交わしたり子ども達からお礼の声をかけられたり交流を重ねている。地域に住む家族の来訪も多く、調査に行った際にも家族が訪問して利用者の話し相手をしたり食事の見守りを行っていた。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 さがみ
ユニット名	大地

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>五つの4文字熟語で介護に向かう姿勢を表している。地域密着を示す理念は無いが、地域の方との連携は、大切に思っている。</p>	<p>開設時に作成した理念を事務室やスタッフルームに掲示し、入職時やスタッフ会議で内容を説明し周知を図っている。職員は理念を念頭に置き、利用者個々の人柄を把握し、常に笑顔で寄り添って話しかけたり手を添えたりしてその人のペースに合わせてサポートしている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事（大凧上げ、盆踊り、消防訓練、お月見等）に参加し、なじみの関係を作るよう心掛けている。日々の散歩も知って頂く機会と思う。</p>	<p>自治会に加入し、職員が防災訓練に参加している。利用者は、地域で行われる大凧上げ、お祭りなどを見物に行っている。この地方特有の「月見の風習」に事業所も参加し、利用者が訪ねてきた子供たちに月見団子を手渡しして喜ばれている。その後、散歩の際に子供たちに出会ったときには、お礼の言葉をかけてくれた。囲碁の相手や合唱、ギター演奏などのボランティアが来ている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加させて頂き、多くの方に、ホームを知って頂くようお願いし、ホームとして地域のお手伝いが出来るかを考えて行きたいと思っている。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>御入居者の御様子を報告し、皆様の生活を知って頂く良い機会と考えている。ボランティアの協力をお願いすることもある。</p>	<p>運営推進会議は二ヶ月毎に開催し、参加メンバーは自治会長・民生委員、地域包括支援センター、家族、管理者・職員である。事業所からの状況報告の後、参加者の意見や感想を聞いており、双方向的な話し合いの場になっている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>必要に応じ、お電話等で常に、連絡をさせていただいている。今年は、管理者交代があった為、いつもの年より連絡する機会が多くなっている。</p>	<p>市の高齢福祉課とは、用事があれば随時出向いで話し合うなど、情報の交換をしている。高齢者支援課の主催する「さがみはら・ふれあいハートポイント事業」に協力している。地域包括支援センターが主催する、「担当地域ケア会議」に年2回ほど出席して他の介護保険事業所と情報交換などを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠はせず、スタッフには、玄関の開く音に注意することと、常に所在確認を行うようにする。	身体拘束をしないケアについて、契約書などに記載し利用者・家族に説明している。防止マニュアルがあり研修を行うとともに、スタッフルームに掲示している。玄関は夜間を除いて施錠していない。ユニット入口も施錠せず鈴やチャイムを設置して、職員が見守ったり付き添ったりして不意の外出に備えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	防止マニュアルをスタッフルームに用意し、読んでいただくようスタッフ会で話している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はないが、今後必要に応じて行っていきたいと思う。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の契約の際は、契約書を事前にお読みいただき、契約時には、ご質問にお答えして、不安の無いようにご入居いただけるよう対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画を送付する際、ご意見をいただけるよう、手紙をつけ、いただいたご意見はスタッフに業務連絡で伝えている。	利用者・家族の意見・意向は運営推進会議や家族会での話し合いで聞いている。家族が個別に訪問したときも主に居室担当者が聞き取っている。職員の名前が分からないという意見に対して、玄関に当日のユニットごとの職員の出勤者名を明示し、職員は自分の名前をはっきりと伝えることにした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社からのアンケート（キャリアシート）により、意見・希望等を伝えられる機会を設けている。又、面談の機会を作り、意見等話しやすい環境作りを心掛けている。	管理者は、聞きかたを工夫したり、身近な事例を示したりして、職員が話しやすい環境をつくっている。職員は、スタッフ会議でケアについての気づきや意見を述べている。職員の提案で、入浴介助や服薬支援の方法について皆で話し合っケアの仕方を変えるなどしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、自分の長所を活かす仕事の取り組みをして頂いています。また、サービス残業が発生しないよう努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格支援制度を利用し、資格取得を勧めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内の他施設見学・情報交換会を通じて、ケアの見直しや振り返りを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、多くの情報をご家族より頂き、入居後の生活に活かせるよう、スタッフに把握してもらう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や不安については、丁寧な対応を心掛けている。多くのご面会をお願いしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者・ご家族の希望を基にして、その方が必要としていることは何かを考え計画を立てるよう心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂くを基本に、家事への参加をお願いしている。人生の先輩であるご入居者に学ぶ姿勢を大切に考える。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支える姿勢が大事と考える。お話しにくい内容のことも、ご家族には知っていただきたいことは、ご家族の気持ちを考えながら、伝えることは必要と思う。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・知人が面会に気軽に訪れて頂けるような雰囲気作りに努め、いらした時は一緒にお茶を楽しんでいただけるよう対応している。	アセスメントでこれまでの生活や人間関係を把握し関係継続を支援している。手紙や年賀状が来た場合は、返信の希望があれば支援している。知人や友人の訪問に関しては、家族の了承を得た方は取り次いで、お茶を出して居室などで自由に交流してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者の動きには、気を配り、1階と2階の交流も含め、会話を楽しんでいただけるよう支援する。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、ご家族が遊びにいらして下さったことがあり、これからも、そのような関係を大切にしていきたいと考えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居のご希望には、出来るだけ対応していくことが必要と考える。囲碁の相手を希望しているご入居者には、ボランティアセンターにお願いし、週1回いらして頂いている。	利用者と絶えず会話することで、意向や希望を聞き取っている。本人の生活歴を参考にスタッフが話題を提供し、雑談をしながら利用者の意向や希望を見つけるようにしている。意思の疎通が困難な場合や言葉にしづらい思いなどは、日常の行動や表情を注意深く観察し推察している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に、ご本人・ご家族より多くの情報を頂き、それによりアセスメントを作成し、入居後の生活に活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を記録に残し、日勤から夜勤へ、夜勤から日勤へご様子を申し送ることにより、状態を把握する。また、必要とする介助が違う為、日々の状態の変化を共有する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会でカンファレンスを行い、話し合いの内容は、介護計画の見直しに参考にしている。4ヶ月に1回及び状態に変化のあった場合に見直しを行う。	介護計画は、アセスメントで利用者の状況や家族の希望を聞き取って作成して家族に説明している。職員は、介護計画の目標や項目に沿って詳細に記録している。計画作成担当者は、記録などに基づいてモニタリングを行い、カンファレンスで話し合って要点をまとめて見直している。必要に応じて医師のアドバイスを受けている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録には、食事・排泄・水分摂取・服薬などの基本的情報のほか、日々の変化についても記録に残し申し送りで情報の共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談のあった場合には、地域包括支援センター・居宅へつなげる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加することにより、昔を思い出し、楽しいひと時を過ごして頂く。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護・往診・緊急時の受入をひとつの医療機関で受けて頂いているが、数名については、ご家族の希望により、入居前のかかりつけに受診されておられる。	協力医は2週に1回往診している。看護師は週1回来訪して健康チェックなどを行っている。歯科医師は週1回の口腔ケアで来訪し、希望があれば治療も行っている。今までのかかりつけ医の診療は家族対応であるが、必要に応じて職員が同行している。診療情報は聞き取って記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ご入居者の状態の変化に不安のある場合は、訪問看護に相談し指示をいただいたり、必要なときは受診する。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院後は、状態の把握とご本人とのなじみの関係を継続する為、お見舞いに伺う。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご入居の時に、指針の説明を通し、お話をして同意をいただいている。</p>	<p>家族や利用者「事業所の医療連携体制と看取りに関する指針」を説明し、同意を得ている。職員は、法人の看護師から指針の内容や看取りの注意点について研修を受けている。現在看取りの事例はないが、今後は利用者の重度化等状況に応じて、利用者・家族、医師・看護師、管理者が話し合って対応する方針である。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルを作り、記録ファイルにはさみ、いつでも読めるよう対応している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加させて頂き、地域の多方面の方とお話をする機会にホームを知って頂くとともに災害避難訓練に参加し、なじみの関係を築く。</p>	<p>防災訓練は年2回実施し、うち1回は消防署が立ち会っている。夜間想定訓練を実施している。事業所の敷地が広く一時避難場所が2か所ある。隣接してオーナーの自宅があり協力を得られる。建物外部のスチール製の倉庫に約3日分の災害備蓄、建物内部の物置に備品類を保管している。管理者は、夜間でも20分ほどで駆けつけられる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は、一人一人の住居と考え、居室に入るときは、ノックをしたり、居室外におられるときは、許可を頂き入室する。敬語を使うなど基本的なことは、スタッフ会で確認している。	職員は、接遇やプライバシーの保護についてスタッフ会議などで話し合って共有し、施設内見学の際には、職員が笑顔で優しく敬語で呼びかける様子が見て取れた。個人情報のあるファイルの表紙は、居室の愛称を使用して個人を区別し、事務所内の施錠できるキャビネットに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉掛けをするようにしている。また、何かを選ぶ時は、選択肢を少なくして、選びやすい工夫をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールについては、食事とお茶の時間以外は、決めておらず、天気・その日の状態に応じて散歩・レクなどを楽しんでいただく。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、理美容に来て頂き、ご希望により、頭髪のカットを受けて頂いている。ご家族がいらして、カットして頂いているご入居者もおられる。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態を常食・一口きざみ・極きざみなど召し上がりやすい状態で提供している。もやしの芽取り・テーブル拭き・食器片付けなど、できる事をお手伝いしていただいている。	献立と食材をセットで専門業者が毎日配達し、職員が調理している。特に指示はしていないが、利用者の中で、できる方は食後の片付けなどを率先して行っている。全介助の方が多いので一緒に食事はできないが、検食はユニット毎の担当者が交代で行っている。お正月のおせち料理、お彼岸のおはぎなど行事食も提供している。	車椅子使用の方が多く、行き先は限られますが、最初は少人数から始めるなどして、外食を楽しむための取り組みを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食材配送を利用しカロリー計算された食事を提供している。主食・副食共に、その方の召し上がりやすい形態と量を考え提供している水分量は記録し必要量を摂って頂くようしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後は口腔ケアをして頂くよう、促し・介助で対応している。特に、お休み前は義歯をはずし口の中をきれいにしてから休んで頂くよう対応している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>ひとりひとりの排泄パターンを把握し、その方に応じた介助を行い、記録に残している。</p>	<p>排泄チェック表によりパターンを把握して、傾合いを見てさりげなく声かけやトイレ誘導をしている。こまめに誘導して一時的にリハビリパンツから布パンツに戻った事例がある。トイレ表示は文字が大きく、はっきりしているので分かりやすい。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄の記録により、水分量・食事量などを参考にして、水分（牛乳を含め）を摂って頂いたり、処方された整腸剤の調整を行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>おひとりづつ、スタッフの介助により、入浴していただく。入浴を拒否されたときは、時間をあけて、再度声を掛けて、入浴していただくよう対応している。</p>	<p>入浴は原則として午後2時から4時の間で週2～3回としている。利用者の希望によって回数や時間に配慮して対応している。入浴が好きでない方には、声かけを工夫したり時間を代えるなどして本人の気持ちを重視して対応している。体調を見てシャワーや清拭に変えることもある。菖蒲湯、柚子湯などで季節感を出している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きなテレビ番組があるときは、ご覧になってから休まれたり、ベッドで休む習慣の無い方は、マットを下に敷いて、休んでいただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はスタッフ全員が把握し、間違えの無いようチェックを行い、薬に変更のある場合は、受診報告・申し送り等で周知する。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の散歩・季節の行事・カレンダー作りなど、できる事に参加していただいている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は、天気をみながら、歩行出来ない方には車椅子を使用し楽しんでいただいている。遠方へのご希望の場合は、ご家族に相談させていただいている。	天気が良ければ午前中、10時のお茶の後に近くを散歩している。事業所の敷地が広く周辺は車の往来が少ないので安全にゆったりと散歩でき、出会った地域の住民や子ども達と言葉を交わしている。体調や天候によっては外気浴のみの場合もある。車椅子の方にも対応している。初詣や花見などにも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい品や必要な品については、ご家族に相談し、スタッフが用意するなどしている。お金は、お持ちいただいていないため、立て替えて次月お支払いいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、用意してさしあげる。電話も希望のあるときは、掛けていただいている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とディールームには、花を飾り、楽しんでいただいている。室温は常に気を配り、調整をしている。	花物語に由来する「花守」が、玄関に大きな生花を飾っている。共用空間にも花があり、利用者や訪問者を楽しませている。リビングルームは窓が大きく採光が充分で、利用者は、近くの自然の風景を眺めながらゆったりとくつろいでいる。壁には、利用者と職員が共同で作った季節感のあるカレンダーなどの作品、行事の写真などを掲示している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、それ以外の時間はソファ・ベンチ・居間などお好きな場所でくつろいでいただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備えた物を使用しているが、家具については、居室に入る範囲であれば、自由にお持ちいただいている。カーテンは防災加工した品をお願いしている。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、ベッドが常備されている。利用者は、好きな色の防災カーテンや馴染みの家具、家族の写真、自作の絵などを飾り、居心地良くしつらえている。部屋は花の名で表しており、個人情報保護の立場から利用者の名前を表示するのは希望者だけとしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアは、バリアフリーとなっており、エレベーターを設置。フロア浴室・トイレには手すりを設置し、安全に移動していただく助けとなっている。		

事業所名	花物語 さがみ
ユニット名	青空

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	五つの4文字熟語で介護に向かう姿勢を表している。地域密着を示す理念は無いが、地域の方との連携は、大切に思っています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（大凧上げ、盆踊り、消防訓練、お月見等）に参加し、なじみの関係を作るよう心掛けている。日々の散歩も知って頂く機会と思います。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加させて頂き、多くの方に、ホームを知って頂くようお話し、ホームとして地域のお手伝い出来るかを考えて行きたいと思っています。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御入居者の御様子を報告し、皆様の生活を知って頂く良い機会と考えます。ボランティアの協力をお願いすることもあります。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、お電話等で常に、連絡をさせていただいています。今年は、管理者交代があった為、いつもの年より連絡する機会が多くなっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は、玄関の施錠はせず、スタッフには、玄関の開く音に注意することと、常に所在確認を行うようにする。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>防止マニュアルをスタッフルームに用意し、読んでいただくようスタッフ会で話している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在は、ありませんが、今後必要に応じて行って行きたいと思います。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご入居の契約の際は、契約書を事前にお読みいただき、契約時には、ご質問にお答えして、不安の無いように入居いただけるよう対応している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護計画を送付する際、ご意見をいただけるよう、手紙をつけ、いただいたご意見はスタッフに業務連絡で伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社からのアンケート（キャリアシート）により、意見・希望等を伝えられる機会を設けている。又、面談の機会を作り、意見等話しやすい環境作りを心掛けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、自分の長所を活かす仕事の取り組みをして頂いています。また、サービス残業が発生しないよう努めています。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格支援制度を利用し、資格取得を勧めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内の他施設見学・情報交換会を通じて、ケアの見直しや振り返りを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、多くの情報をご家族より頂き、入居後の生活に活かせるよう、スタッフに把握してもらう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や不安については、丁寧な対応を心掛けている。多くのご面会をお願いしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者・ご家族の希望を基にして、その方が必要としていることは何かを考え計画を立てるよう心掛けています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂くを基本に、家事への参加をお願いしている。人生の先輩であるご入居者に学ぶ姿勢を大切に考える。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支える姿勢が大事と考える。お話しにくい内容のことでも、ご家族には知っていただきたいことは、ご家族の気持ちを考えながら、伝えることは必要と思います。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族・知人が面会に気軽に訪れて頂けるような雰囲気作りに努め、いらした時は一緒にお茶を楽しんでいただけるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者の動きには、気を配り、1階と2階の交流も含め、会話を楽しんでいただけるよう支援する。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、ご家族が遊びにいらして下さったことがあり、これからも、そのような関係を大切にしていきたいと考えます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居のご希望には、出来るだけ対応していくことが必要と考える。囲碁の相手を希望しているご入居者には、ボランティアセンターにお願いし、週1回いらして頂いている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に、ご本人・ご家族より多くの情報を頂き、それによりアセスメントを作成し、入居後の生活に活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を記録に残し、日勤から夜勤へ、夜勤から日勤へご様子を申し送ることにより、状態を把握する。また、必要とする介助が違う為、日々の状態の変化を共有する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のスタッフ会でカンファレンスを行い、話し合いの内容は、介護計画の見直しに参考になっている。4ヶ月に1回及び状態に変化があった場合に見直しを行う。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の記録には、食事・排泄・水分摂取・服薬などの基本的情報のほか、日々の変化についても記録に残し申し送りでの共有を行っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>相談のあった場合には、地域包括センター・居宅へつなげる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に参加することにより、昔を思い出し、楽しいひと時を過ごす。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護・往診・緊急時の受入をひとつの医療機関で受けて頂いているが、数名については、ご家族の希望により、入居前のかかりつけに受診されておられる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ご入居者の状態の変化に不安のある場合は、訪問看護に相談し指示をいただいたり、必要なときは受診する。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後は、状態の把握とご本人とのなじみの関係を継続する為、お見舞いに伺う。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご入居の時に、指針の説明を通し、お話をして同意をいただいている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルを作り、記録ファイルにはさみ、いつでも読めるよう対応している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域包括センター主催の地域ケア会議に参加させて頂き、地域の多方面の方とお話をする機会にホームを知って頂くとともに災害避難訓練に参加し、なじみの関係を築く。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は、一人一人の住居と考え、居室に入るときは、ノックをしたり、居室外におられるときは、許可を頂き入室する。敬語を使うなど基本的なことは、スタッフ会で確認している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉掛けをするようにしている。また、何かを選ぶ時は、選択肢を少なくして、選びやすい工夫をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールについては、食事とお茶の時間以外は、決めておらず、天気・その日の状態に応じて散歩・レクなどを楽しんでいただく。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、理美容に来て頂き、ご希望により、頭髪のカットを受けて頂いている。ご家族がいらして、カットして頂いているご入居者もおられる。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態を常食・一口きざみ・極きざみなど召し上がりやすい状態で提供している。もやしの芽取り・テーブル拭き・食器片付けなど、できる事をお手伝いしていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食材配送を利用しカロリー計算された食事を提供している。主食・副食共に、その方の召し上がりやすい形態と量を考え提供している水分量は記録し必要量を摂って頂くようしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後は口腔ケアをして頂くよう、促し・介助で対応している。特に、お休み前は義歯をはずし口の中をきれいにしてから休んで頂くよう対応している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>ひとりひとりの排泄パターンを把握し、その方に応じた介助を行い、記録に残している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄の記録により、水分量・食事量などを参考にして、水分（牛乳を含め）を摂って頂いたり、処方された整腸剤の調整を行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>おひとりずつ、スタッフの介助により、入浴していただく。入浴を拒否されたときは、時間をあけて、再度声を掛けて、入浴していただくよう対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>好きなテレビ番組があるときは、ご覧になってから休まれたり、ベッドで休む習慣の無い方は、マットを下に敷いて、休んでいただいている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬はスタッフ全員が把握し、間違えの無いようチェックを行い、薬に変更のある場合は、受診報告・申し送り等で周知する。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>毎日の散歩・季節の行事・カレンダー作りなど、できる事に参加していただいている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>毎日の散歩は、天気をみながら、歩行出来ない方には車椅子を使用し楽しんでいただいている。遠方へのご希望の場合は、ご家族に相談させていただいている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>欲しい品や必要な品については、ご家族に相談し、スタッフが用意するなどしている。お金は、お持ちいただけないため、立て替えて次月お支払いいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、用意してさしあげる。電話も希望のあるときは、掛けていただいている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とディールームには、花を飾り、楽しんでいただいている。室温は常に気を配り、調整をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、それ以外の時間はソファ・ベンチ・居間など好きな場所でくつろいでいただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備えた物を使用していただいているが、家具については、居室に入る範囲であれば、自由にお持ちいただいている。カーテンは防災加工した品をお願いしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアは、バリアフリーとなっており、エレベーターを設置。フロア浴室・トイレには手すりを設置し、安全に移動していただく助けとなっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語 ぞかみ

作成日 H26. 8. 1

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	IV X0	入居者の多様化が盛況 思ふ通りに外出する 外出が難しい。	2ヶ月11日、外出 回数・外出の機会を 設ける。	本年度の目標として 20-カ月に相対し、外出 回数・外出の回数増加 計画する。	H26. 4月 ～ H27. 3月 1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。